

所属・資格 心理学科・准教授

申請者氏名 山口 義枝

研究課題		対人交流における共感不全がつくる否定的影響（2）
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>対人関係において、他者への共感不全が、個人の精神的健康に、どのような影響を与えるのかを研究テーマとして継続している。平成30年度も継続課題として、共感不全による影響についての研究を行った。</p> <p>個人が、自身の体験や感情を、重要な他者から共感されないことは、自己肯定感の低下のみでなく、抑うつ状態を引き起こす等の精神的影響があることは報告されている。日常生活において、小さな共感の積み重ねの不足が、どのように精神的健康を損なうのかについて、先行研究を整理すると共に、自身の心理面接から得られた知見を事例研究として検討した。</p>
	研究の結果	<p>心理面接の実践を通して、身近で重要な他者からの日常的な共感不全が、自己に対する肯定感低下のみならず、自己価値観の低下、自身の自然な感情反応の弱化等、主体的な「わたし」感覚を徐々に傷つけていくことが認められた。</p> <p>この知見より、主体的「わたし」感覚を回復させるためには、面接者は中立的な立場からの支援のみでなく、肯定的フィードバックを通常面接よりも積極的に行う必要があることが明らかになった。</p>
	研究の考察・反省	<p>日常的な共感不全は、日常的であるがゆえに、共感されない立場の側にも意識化されづらく、自身の言動に共感されないことが当たり前ようになってしまう。そのため、共感不全により苦しんでいる側であっても、変化への抵抗が起きてくる。心理面接において面接者は、変化を起こすことを性急に求めないような慎重さが必要であると考えます。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 日本心理臨床学会第37回秋季大会 大学生の自閉症スペクトラム傾向と受身傾向が被害の意味づけに及ぼす影響 諏訪百合子・山口義枝 2018年9月1日/神戸国際展示場	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	日本箱庭療法学会第32回大会 研究発表司会者 2018年10月21日 新潟青陵大学	